

2019(平成31・令和元)年度

事業報告

1. 情勢報告

10月の消費税増税に先立ち、9月に全世代型社会保障検討会議が設置され、年金・労働・医療・介護の分野での制度の全面的な見直しが始められようとしています。

地域医療の分野では公的病院の再編統合に向けて424病院の名称が公表されました。

このように社会保障制度全体を変えていこうとする動きがある中、2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、2020年4月16日現在で感染者が2百万人を超えました。日本でも4月7日に13都道府県を対象に非常事態宣言が出され、4月16日に対象が全国に拡大されました。

滋賀県でも感染された方が4月29日現在で100名に近づき、病院に収容しきれない所まで来ています。

その影響は、法人内でも下請け作業の減少からはじまり、日々の健康観察、感染防止の取り組み、利用自粛の呼びかけなど、利用者と職員の生活にも重大な影響を及ぼしています。

こうした事態に、見直しの対象にされていた公衆衛生や医療保障など人々の命を守る基本的な制度の大切さが明らかになるとともに、先の見えない不安から、差別や攻撃的な言動が目立っていることも見逃せません。改めて疾病・貧困等様々な困難に苦しむ人々に心を寄せ、ともに考え、共同することが、解決への道ではないかと考えます。

2. 法人の重点課題の概要

- (1) 人材確保については、雇用情勢の深刻化を踏まえ、4回の採用試験を実施し、正職員を5人、年度途中も含め契約職員を5人採用した。また、契約職員1人を正職員へ転換した。複数の就職サイトを新たに活用し、積極的に採用活動を展開した。厳しい状況の中、目標には及ばなかった。
- (2) 新任・中堅研修については、職員のニーズに合わせた内容とし、後述のように計画的に進められた。施設長研修については独自の取り組みはできなかった。
- (3) 学生実習を4事業所で、延べ52人受けとめた。職員4人が介護福祉士の資格を取得した。
- (4) ショートステイむくの木移転については、引き続き移転先の検討を進めたが、適当な移転先を決定することができなかった。
- (5) なんぶでいセンターについては、1年間の休止ののち、2019年度末をもって廃止した。
- (6) グループホーム土砂災害に関する避難計画を策定した。
- (7) きょうされん国会請願署名7654筆を集めた。
- (8) 未収金について、個々のケースの事情に応じた取り組みを、大津市等の関係機関と連携をとって進めた。
- (9) 芸術活動については、事業所合同での造形活動を取り組み、合同作品展を浜大津のギャラリーQで実施した。また作品が、ぴかっとアート展等に入選した。
- (10) 後援会・家族会連合会と共催で映画「星に語りて」上映運動に取り組んだ。

3 組織的な課題等

引き続き、施設長会議に理事長も出席し、業務を執行した。

苦情委員会において、苦情として取り上げられたのは26件で、第三者委員に申し立てられたものはなかった。

4 他の組織との連携

- (1) きょうされん滋賀支部へ副理事長・事務局長、常任理事を派遣し、大津ブロックとしても副ブロック長を担った。滋賀支部として県との交渉及び大津ブロックとして大津市との交渉を行った。
- (2) 大津市福祉施設協議会の事務局、OSKの副会長、滋賀セルフ協の副会長等の役割を担い、活動を支えた。
- (3) おおつ福祉会後援会との連携を深めた。事務局を担い、運営委員に法人役員を派遣した。地域

のまっりのイベントの参加をすすめ「星に語りて」上映運動を共同で取り組んだ。後援会から法人に3,000千円の寄附を頂いた。

(4) 家族会連合会との懇談会を1回開催した。「星に語りて」上映運動を共同で取り組んだ。

5 財政運営

(1) 資金収支計算書の当期資金収支差額が▲8,629千円であった。

(2) 建設積立金を積み立てた。(積立額4,400千円)

6 事業量

各事業の事業量は次のとおり

事業種別	事業所名 ()内定員	事業量		
		H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績
障害福祉サービス事業 (日中活動)	①唐崎やよい作業所(生活介護34人)	8,218人/年	7,669人/年	7,270人/年
	②社会就労センターこだま(就労継続B40人)	8,857人/年	7,785人/年	7,428人/年
	③社会就労センターあおぞら (生活介護30人) (就労継続B10人→廃止)	7,845人/年 1,404人/年	7,376人/年	7,355人/年
	④多機能型事業所ふうね(就労継続B20人) (就労移行6人)	4,353人/年	5,964人/年 150人/年	5,860人/年 351人/年
	⑤おおぎの里 (生活介護15人) (就労継続B15人)	2,812人/年 2,336人/年	2,541人/年 1,926人/年	3,303人/年 1,736人/年
	⑥なんぶでいセンター(生活介護13人)	1,210人/年	1,011人/年	休止
	⑦「伊香立の杜」木輝 (生活介護40人) (生活訓練10人)	9,952人/年 休止	10,781人/年 休止	11,258人/年 休止
グループホーム・ケアホーム	①南志賀ひまわりホーム(共同生活援助49人)	15,037人/年	13,261人/年	12,697人/年
	②伊香立の杜ケアホーム(共同生活援助38人)	9,550人/年	12,231人/年	12,704人/年
ショートステイ	①ショートステイむくの木(短期入所10人)	2,822人/年	2,620人/年	2,477人/年
	②伊香立の杜ショートステイ(短期入所12人)	3,589人/年	2,816人/年	2,975人/年
ホームヘルプ等	①おおつ福祉会ホームヘルプセンター	15,909時間	14,779時間	13,383時間
	②日中一時支援事業	1,187回	926回	554回
相談支援事業	①相談支援事業所ひびき	4,495件	5,598件	5,243件

7 理事会・評議員会の開催と出席状況、監査の状況

(1) 理事会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/理事総数	出席/ 監事総数
2019年 5月29日(火)	伊香立の杜」木輝	7/7	1/2
6月16日(水)	コープ膳所	7/7	-/2
8月28日(水)	コープ膳所	7/7	1/2
11月27日(水)	コープ膳所	7/7	2/2
2020年 3月18日(水)	社会就労センターこだま	6/7	2/2

(2) 評議員会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/ 評議員総数
2019年 6月16日(日)	社会就労センターこだま	5/8

(3) 監事による監査の実施状況

実施年月日	場所	担当した監事
2019年 5月10～15日(水)	「伊香立の杜」木輝	馬場監事・渡邊監事

8 研究・研修部

本年度研修部が企画・実施した研修以下の通りである。本年度新たに人権研修が入り、年間9回の研修を企画・実施した。

研究研修部会議は年間21回実施（月曜日16時30分～ 唐崎やよい作業所）。

(1) 新任・中堅研修

①新任研修 6月14日(金) 16:30～18:30

「家族の願い」 講師：伊香立の杜 木輝 利用者家族

②新任・中堅研修 2019年6月15日(土) 於：勤労福祉センター

i) 「安全運転講習」 岡武和暁氏 (岡武保険事務所)

ii) 講演「知的障害のある人たちの生涯にわたる支援を考える」中村隆一氏

iii) グループワーク 全6グループ

(2) 人権研修 2019年11月16日(土)

午前「えんとこ」「亜由美が教えてくれたこと」北部地域文化センター

午後 グループワーク 伊香立の杜・障害者福祉サービス事業所おおぎの里

(3) 中堅研修 「法人の今後について語る 各事業所の施長が感じること」

於：唐崎やよい作業所

	開催日	発表者
1	2019年12月25日	柴田(伊香立ショート)・他谷(こだま)
2	2020年 1月15日	芦田(ヘルプ・日中一時)・三ツ谷(伊香立ケアホーム)
3	2020年 1月29日	木村(GH)・浅田(おおぎ)

発表を受けて
グループワーク

(4) 新任フォローアップ研修 経験年数 1年目～3年目

2020年2月5日(水) 於：伊香立の杜 木輝

① 講義「発達の視点を持った支援について」 講師：小西(ふうね)

② グループワーク

(5) 研究集会 2020年3月7日(土) 延期 於：勤労福祉センター

①実践報告会 ②分科会

*新型コロナウイルス感染予防のため2020年度5月に延期

(6) 人材育成研修 本年度初年 担当 小西

回	実施日	内容	回	実施日	内容	回	実施日	内容
1	5/8	ガイダンス	2	6/5	事例	3	7/24	グループワーク
4	8/28	小鳩の家合同研修	5	9/18	北大津養護学校見学	6	10/9	合同研修と見学振り返り・性の学習
7	2/12	1年間の振り返り						

9 会議報告

(1) 事業企画部 開催回数 12回

- ・きのこプロジェクト（障害が重く行動障害を呈する人たちの中には、集団生活と離れた個別性のある施設整備が必要なケースがあることを実践の中で確認してきた。このような施設整備の検討を進めていくととして、2か月に一回程度の会議を開催。）3回

①法人理念「めざすもの」の見直しの検討(長期的に検討)、新築GH家賃について

②むくの木に移転に関わって 定員の見直し、複合的な事業展開も見据え

高齢者事業の移行に向けて、目的、活動方針等の検討→土地の見通しが持てるようになってから検討に入ることにする

③きのこプロジェクト 具体的な行動障害の人のケースをあげていき、(これまでのケースの振り返りと新たに2ケースの検討と外部の利用者2ケース) 住まいの検討

(2) 居宅会議 年間3回開催

以下の3点をテーマとして挙げ開催した。

①移動支援の改正についての勉強

移動支援改正案の資料の読み合わせと問題点を共有した。

②職員不足解消の為の情報共有や提案

法人全体の長期的な課題と捉え今後も検討

③事業収入増についての検討

事業の収益増につながる動きを居宅事業所ごとに考え、議論した。

(3) 給食部会 開催回数 年 3回

①事業所の状況報告 及び 確認 2019年5月1日

異物混入、食事摂取基準の変更等

②事業所の状況報告 及び 確認 2019年6月6日

異物混入、新メニュー、故障(あおぞらの食洗機)、給食の試食会実施

③各事業所の状況報告 及び 確認 2020年1月23日

食材業者の変更(こだま)、嗜好調査実施、購入(やよいの食器乾燥機) 試食会実施の報告

(4) 広報会議

リーチ54号・55号・56号の3刊を発行した。

9月発行の54号では、やよいとあおぞらの旅行レポート・新任職員の紹介・国会請願行動で国会議事堂を訪れた利用者の記事など、1月発行の55号では、きょうされん全国大会inあいちのレポートや参加した利用者の感想・法人交流会とこだままつりの様子を、3月発行の56号では、浜大津のギャラリーQで開催されたおおつ福祉会合同作品展の紹介・こだまとふうねの旅行の様子・第43次国会請願署名募金運動のレポートを、それぞれ掲載した。

また、利用者2人を紹介する企画「この人にクローズアップ」を毎号掲載した。

(5) 美術会議 4回開催

・合同絵画活動 (1回)

参加事業所 A: おおぎ、やよい、こだま B: おおぎ、あおぞら、木輝

・おおつ福祉会合同作品展 (2019. 11. 22～12. 2) ギャラリーQにて

「わたしの表現」～春夏秋冬～をテーマに法人5事業所合同で作品展を開催した。来場者数は11日間で315人。自主製品の販売 総売上26200円

・作品を各美術展に応募し、ぴかつtoアート展でおおぎから3人入選。

10 各事業所の報告

(1) 唐崎やよい作業所

1. 利用実績 (定員34人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数 (日)	20	20	21	23	19	20	21	20	21	20	19	21	245
契約者数 (人)	37	36	36	34	34	33	33	33	33	33	33	33	408
利用者延出勤数 (人)	630	620	617	653	540	599	645	591	619	587	543	626	7,270
対定員利用率 (%)	92.6	91.2	86.5	83.5	83.8	88.2	90.6	87.1	86.8	86.5	84.1	87.9	87.4

高齢利用者の介護保険移行と他事業所への移行により、契約者33人となる。

長期欠席者一人の方は相談も含め引き継ぐ支援機関がないため、連絡機関として契約を継続。また、一人の方は、身体機能の低下により他事業所へ移行となった。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 利用者の日中活動を充実させるために仕事 (手織り・陶芸・リサイクル)、文化的活動 (音楽・造形・絵画等)、身体を動かす活動 (散歩・体操等)、毎週1回の定期的なレクリエーション (誕生日会、合同造形、カラオケ、グループ活動、季節行事等)、一泊旅行を実施した。オリジナルTシャツの制作販売することができた。また、きょうされんグッズデザインコンクールで入賞した作品が卓上カレンダーに掲載され、活動を知ってもらう機会となった。
- (2) 車両の整備を予定していたが、補助金申請が落選したため整備できなかった。食器消毒保管庫が故障し修理ができなかったため購入した。
- (3) 利用者の発達検査が専門家講師の都合により実施できなかった。
- (4) やよい通信を9月と3月に近隣地域へ配布した。物品販売の他、署名、こだままつりの広告・協力金について、近隣の企業、商店、学校、医院へ働きかけをおこない、多くの協力を得ることができた。年間通して、大学の「介護体験実習生」や「保育実習生」5人と体験ボランティアを受け入れた。また大津市市社協からの紹介で、陶芸ボランティアの方の協力を得て、作品作りを進めることができた。

3. 苦情・事故等

苦情3件 事故3件 (内車両1)

(2) 社会就労センターこだま

1. 利用実績 (定員40人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数 (日)	21	21	20	20	21	20	22	20	20	20	19	21	245
契約者数 (人)	45	45	44	44	43	43	44	44	44	44	44	43	527
利用者延出勤数 (人)	689	638	612	705	567	607	671	613	631	582	519	596	7,428
対定員利用率 (%)	82.3	75.8	76.5	88.3	67.5	76.0	76.3	76.8	79.0	72.8	68.5	71.0	76.0

契約者45人でスタートした。年度途中には加齢に伴い通所が難しくなっていた方の事業所移行とGH入居で退所となった方や亡くなられた方などがあり、3月末での契約者は43人となった。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) こだまの現状を踏まえた利用者の処遇に関しては、関係機関と連携しながらGH入居や日中事業所の移行をする事ができた。また、事業、作業内容について職員で検討をする場を設けた。
- (2) 専門家による利用者の発達検査とケースカンファレンスを実施する事ができ、利用者理解や実践内容を職員全体で共有し検討する機会となった。(5回/年)
- (3) 一般就労に向けて、おおつ働き・暮らし応援センターと面談をした。今後も本人の意向を確認

しながら継続的に取り組んでいく。

- (4)今年度も1泊旅行ではなく日帰り旅行を実施した。スクラムの会(利用者自治会)やクラブ活動を実施したが、全体的に参加者が減っている事を踏まえて内容の検討は必要。
- (5)「ぜぜこだまわっしょい夏まつり」を開催、猛暑による熱中症対策として規模を縮小し室内で行った。法人内外問わず、多くの来場者があり交流の場となった。また、介護等体験や資格取得の実習、インターンシップ等を積極的に受ける事ができた。
- (6)美術活動や表現活動にも積極的に取り組み、法人内の合同作品展にも出品する事ができた。

3. 苦情・事故等

苦情 0件、事故 3件

(3) 社会就労センターあおぞら

1. 利用実績(定員30人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	19	20	21	23	18	19	21	20	20	19	18	21	239
契約者数(人)	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
利用者延出勤数(人)	607	604	637	689	544	588	663	607	625	608	542	641	7,355
対定員利用率(%)	106.5	100.7	101.1	100.0	100.7	103.2	105.2	101.2	104.2	106.7	100.4	101.7	102.6

当初の計画通り新たに利用者2人と契約したが、職員体制が充足せず週3日の利用となった。昨年度2人の退所があったため契約人数の増減は無かった。1日の平均利用者数は30.8人だった。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1)利用者が制作した作品に多くの方に触れてもらうため、ふれあい鯉のぼり祭りや小野学区文化祭・法人合同作品展に出展、NO-MA・京都信用金庫・ほたるの湯・アンティークフェア・大津市役所のコンビニなどで展示販売を行った。
- (2)地域との交流を深める目的で例年通りあおぞらこまつりを開催し、多くの人を迎え入れ、利用者とのふれあいの場をもつことができた。またきょうされん国会請願署名・募金活動では自治会の協力もあり、地域に広くきょうされん運動を知っていただけた。

3. 苦情・事故等

苦情 0件、事故 0件

(4) 多機能型事業所ふうね

1. 利用実績

○就労継続支援B型(あこーる)(定員30人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	22	23	22	23	21	21	23	20	22	21	20	23	261
契約者数(人)	25	25	25	25	25	25	25	24	25	25	25	25	299
利用者延出勤数(人)	503	495	505	524	483	480	500	433	492	475	448	522	5,860
対定員利用率(%)	76.2	71.7	76.5	75.9	76.7	76.2	72.5	72.2	74.5	75.4	74.7	75.7	74.8

2人退所(1人は同法人事業所へ異動、1人は他事業所)新規に1人入所で25人の契約をおこなった。

○就労移行事業(ころーれ)(定員6人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	21	20	22	18	19	21	20	20	19	18	21	240
契約者数(人)	1	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	27

利用者延出勤数(人)	13	22	28	29	22	26	28	34	33	39	39	40	351
対定員利用率(%)	10.3	17.5	21.7	22.0	20.4	22.8	22.2	22.3	27.5	36.1	38.1	31.7	24.4

新規に2人の契約をおこなった。数か月間の体験利用が契約につながった。

2. 重点課題に対する取り組みについて

(就労継続B型)

- (1) 工賃目標については、年額一人平均12.6万円(交通費補助含む)となり目標達成できなかった。箱折り(福見印刷、名倉紙工)が全体の2/3を占めたが、新型コロナウイルスの影響で、年度末からの作業が激減した。
- (2) 自主製品(こんにやく製造)の販路拡大については、販売箇所を3箇所増やした。また、きょうされん滋賀支部「お花畑」にギフトセットとしてカタログ掲載をおこなった。
- (3) 一般企業への就労者は希望者がおらず達成できなかった。
- (4) 利用者が主体となる取り組みとして、利用者自治会運営の支援をおこなった。一泊旅行(愛知・名古屋方面)の実施や、七夕(流しそうめん)、新年会(餅つき大会)、おつかれ様会(カラオケ、ビンゴ大会)の企画や実施の支援をおこなった。
- (5) 利用者の課題を心理の面から探るため心理職と連携をとり、次期に向けて個別面談の準備をおこなってきた。

(就労移行)

- (1) 就職に向けての支援(作業場面での振り返り、法人内事業所での実習、障害の理解、履歴書の書き方、面接練習など)をおこなった。また各種申請手続きなどを本人ができるように支援をおこなった。
- (2) 社会的な知識を学び、暮らしについて考える機会として、様々な行事や施設外実習をおこなった。
- (3) 生活や仕事に関する相談支援については、自己の体調管理も含めて自己理解を深め、就職後の生活を想定して考えた。
- (4) ホームページの作成では、法人内自主製品の紹介、各事業所の行事(まつり等)、利用者の記事を紹介した。ネット販売では一部の業務を利用者がおこない(写真撮影、商品の紹介の一部、梱包など)、法人内製品の販売を開始した。
- (5) 定期的に精神科医(法人嘱託医)のスーパービジョンを受けながら支援者自身が学びを深め、支援に活かした。また、法人全体に参加の呼びかけをおこなってきた。

3. 家族・地域・他団体との連携について

地域の特別支援学校など、実習および見学を積極的に受け入れてきた。(12件、問い合わせ2件)地域の社会福祉施設(高齢・障害・保育分野)が課題を共有し横のつながりを活かすため大津市社協の志賀・北部ブロック施設連絡会に参加した。

外部委託業者(webサイト制作など広告事業をしている会社)に福祉の制度や現状を伝え、ホームページやネットショップでの表現について意見交換しながら作業をすすめた。

心理職として他法人のスーパービジョンを年間9回実施した。

4. 苦情・事故等

苦情 2件、事故 1件

(5) 障害者福祉サービス事業所おおぎの里

1. 利用実績

○生活介護(定員15人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---	----

開所日数(日)	21	21	21	23	19	20	21	20	21	20	19	22	248
契約者数(人)	20	20	20	20	20	19	19	19	19	18	18	18	230
利用者延出勤数(人)	286	284	289	323	260	257	278	267	285	264	238	272	3303
対定員利用率(%)	91.3	90.7	92.0	94.0	91.3	86.0	88.7	89.3	90.7	88.0	84.0	82.7	89.3

9月は他法人のグループホーム入居に伴い、日中事業所も移行することになったため19人の利用になった。1月には長期欠席している利用者が1人退所し、18人になった。3月には1人が高齢者施設に入所し、退所となったが、「伊香立の杜」木輝と併用利用の利用者を1人契約し、3月末時点で契約者数18人となった。

○就労継続支援B型(定員15人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	21	21	23	19	20	21	20	21	20	19	22	248
契約者数(人)	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	142
利用者延出勤数(人)	126	132	147	172	144	151	163	151	153	137	121	139	1736
対定員利用率(%)	40.0	42.0	46.7	50.0	50.7	50.7	52.0	50.7	48.7	46.0	42.7	42.7	46.7

6月はふうねからの移行で1人、オアシスの郷から1人契約し、13人の利用となったが、他法人の事業所に1人移行したため、12人の契約者数となっている。さらに、3月末で家庭の事情により、1人退所することになった。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) なんぶでいセンターとの事業統合により、4人の利用者を受け入れた。他の利用者のうち1人は他法人の事業所へ移行し、もう1人は契約に繋がらず在宅生活をするようになった。
- (2) 実習を経て、3人が契約につながった。
- (3) 車両購入のため補助金申請を行ったが、申請が通らず、車両購入を実施することが出来なかった。
- (4) 定期的な発達検査及びケースカンファレンスを実施することができ、2人のケースを深めることが出来た。

3. 家族・地域・他団体との連携について

地域交流のため、おおぎの里フェスタに参加し、実行委員会にも参加することで地域との繋がりを持つことが出来た。

4. 苦情、事故等

苦情2件、事故6件

(6) 「伊香立の杜」木輝

1. 利用実績

生活介護(定員40人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	20	21	20	23	19	20	21	20	21	20	18	21	244
契約者数(人)	47	47	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	576
利用者延出勤数(人)	919	956	926	1079	860	890	978	931	976	828	848	964	11,258
対定員利用率(%)	115.0	114.0	115.8	117.5	113.3	111.3	116.5	116.5	116.3	114.0	118.0	115.5	115.3

6月より実習で受け入れていた利用者と契約し、契約者48人となる。一方週2回午前中の実習を受けとめていた利用者については今年度で終了することになった。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 職員体制が不十分ななか、体制変更等を行い、班を5班にして2年目になったことも有り、大きな事故もなく活動を行うことが出来た。
- (2) 職員研修はきょうされん、自立支援協議会等の新任向けのもの、内部研修等、限られた研修にとどまってしまった。
- (3) 2階のウッドデッキについては、利用者の活動として今年度完成できた。
照明器具についても、故障があった活動室1室全部をLED仕様に取り替えた。
- (5) 補助金申請(河本文教福祉振興会)を行った車輛については落選したため、今年度は購入できなかった。
- (6) 納涼祭は熱中症対策(ミストシャワー、ボランティアへの水分提供等)を取り実施をした。また、他の行事についても開催出来た。
- (7) 発達検査及びケースカンファレンス2ケースの実施をした。

3. 家族、地域、他団体との連携

- (1) イベント開催時に地域の方、家族の協力のもと、実施できた。また、家族会に向けた給食の試食会を2回行い、好評だった。

4. 苦情・事故等

苦情 0件、 事故 0件

(7) 伊香立の杜ケアホーム

1. 利用実績(定員38人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
利用実績(人)	1042	1,064	1,039	1,090	1,059	1,032	1,098	1,037	1,076	1,048	1022	1,097	12,704
平均利用人数(人)	34.7	35.5	34.6	36.3	35.3	34.4	36.6	34.6	35.9	34.9	34.1	35.6	34.7

年度中の利用者への入れ替わりは無かった。

インフルエンザ等の集団感染は無かったが、風邪の流行は見られたため、感染予防について職員間で再度確認し衛生管理の徹底を行った。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 随時夜勤者の募集等を行ったが、新たに職員を確保することは出来ず、山百合ホームについてケアホームと同様の担当制を設けることは出来なかった。
- (2) 利用者の個別の課題と集団での暮らしを考慮して個別に環境整備を行った。その中で一人の利用者の居室変更を行った。
- (3) もくれん及びくぬぎのトイレ・洗面所周辺の壁や床の修繕は火災保険の適用となり、年度内に着工したが、完了及び支払いは次年度に持ち越しとなった。
- (4) 車両(軽自動車)の購入を計画していたが、なんぶでいセンターで使用していたデミオを使用することとなった。
- (5) 毎年恒例のイベント(行事食も含む)を実施することが出来た。(年6回程度)
- (6) 避難訓練を伊香立の杜ショートステイと合同で実施した(2020年3月)。山百合ホームは年2回実施した(2019年7月、2020年3月)。
- (7) 外部研修の一部希望した人に参加してもらったが、全体として取り組むことが出来なかった。

3. 家族、地域、他団体との連携

イベント(納涼祭、もちつき大会)については、伊香立の杜全体と「守人の会」と共同で取り組みを進めてきた。また、引き続き伊香立の「耕楽会」に全面的に協力し、米の購入を行っている。

4. 苦情・事故等

苦情 1 件、事故 0 件

(8) 伊香立の杜ショートステイ

1. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数 (日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	30	29	31	365
実利用者数(人)	80	81	82	83	79	85	90	89	93	88	82	82	84.5
延べ利用者数(人)	230	236	237	234	226	236	274	247	260	265	251	279	2,975
平均利用者数(人)	7.7	7.7	7.9	7.6	7.3	7.9	8.9	8.3	8.4	8.9	8.7	9.0	8.2
利用率(%)	64.2	64.2	65.8	63.3	60.8	65.8	74.2	69.2	70.0	74.2	72.5	75.0	68.3

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 行動障害を呈する利用者への配慮や、曜日による需要の偏り等もあり、目標としていた平均利用率10人には届かなかった。行動障害を呈する方が新棟を一人で利用することで安定して過ごすことができた。
- (2) ケース会議に積極的に参加して各機関と情報や本人像の共有を行い、適切な支援を模索し実践することができた。緊急時対応についても、関係機関と連携し、概ね受け入れることができた。
- (3) 伊香立の杜ケアホームと合同の避難訓練は2020年3月に実施する事が出来た。
- (4) 例年通りのイベント食や、取り組みを、ケアホームと合同で実施することが出来た。
- (5) (4)と同様、「守人の会」と連携し、伊香立の杜全体で取り組みことができ、それぞれが盛況に終わることが出来た。また、地域通信も定期的に発行することが出来た。

3. 苦情・事故等

苦情 6 件、事故 0 件

(9) グループホーム

1 利用実績 (11ホーム、定員45人、)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
利用実績(人)	1139	1165	1122	1154	1114	1101	1076	996	1003	938	919	970	12,697
平均人数(人)	38.0	37.6	37.4	37.2	35.9	36.7	34.7	33.2	32.4	30.3	31.7	31.3	34.7
利用率(%)	92.6%	91.7%	91.2%	90.8%	87.6%	89.5%	84.7%	81.0%	78.9%	73.8%	77.3%	76.3%	84.6%

体験型ホームである「ゆうやけホーム(定員4人)」の延べ利用者数は185人、開所日数は78日間であった。

グループホームとしては利用者4人が退去となった。4人の行き先は一人暮らし、身体障害者入所施設、高齢者施設、県外入所施設となっている。新たに利用者2人が入居となり、年度末時点での空きは4室となった。

自立生活支援ホームについては5人が退去し、4人が一人暮らしへ移行した。また新たに2人の入居があった。年度末時点での空きは5室となった

2 重点課題に対する取り組みの状況

- (1) 財産管理について、利用者預り金規定を昨年度見直し、徹底した管理を継続した。成年後見人や天津市社会福祉協議会の権利擁護事業への引継については3人の利用者を成年後見人制度利用につなげることができた。
- (2) 常勤職員による月2回の職員会議、各ホーム単位のキーパー会議を月1回、および全体キーパー会議を年2回開催した。新型コロナウイルスの影響で3月の全体キーパー会議は中止した。

- (3) 65歳以上の利用者が6人となり、介護保険との併用ケースにおいては介護保険のケアマネージャーと連携して生活を支えている。また疾病により今後医療機関との連携が必要となる可能性があるケースもあり、多くのホームで体温及び血圧測定、体重測定などが引き続き必要となっている。
- (4) 自立生活支援ホームは一人暮らしへの移行という有期限の生活の中、自立生活に向けてその都度、細かい目標設定を利用者と相談したり、ケース会議を定期的に重ねたりすることで支援を積み重ねてきた結果、5人の利用者を一人暮らしへ移行することができた。
- (5) 余暇活動について、ホーム行事は年11回開催することができた。内容は食事会、映画鑑賞会、外出等。
- (6) 各ホームの消防訓練を利用者、キーパー、職員を含めて年2回実施した。非常災害時のマニュアルについても各ホームで避難所や避難場所などの再確認を行った。土砂災害警戒区域になっている南志賀ひまわりホームは土砂災害防止法に基づき避難確保計画を作成し、避難訓練も実施した。
- (7) 2019年7月末日で風香ホームを廃止した。それに伴い南志賀ひまわりホームの定員を5人に変更した。
- (8) 桜野ホームと第2桜野ホームについては大家さんの都合で2020年11月末での契約終了となっている。移行先の物件を行政の協力も得ながら探していく。
- (9) 各ホームの人員配置については時期により確保が難しい時もあったが、風香ホームの閉所もあり、一定の人員配置は確保することができた。
- (10) 各ホームのエアコン老朽化に伴い、計画的に新調を行った。
- (11) 公用車については2月にミニキャブを廃車し、新たにリース契約でスペーシアを購入した。

3 家族、地域、他団体との連携

地域の自治会に継続して加入した。一部のホームでびわこ一斉清掃や地域の清掃活動に参加した。今年度は地域住民から利用者の行動について苦情が複数件あり、話し合いを持ち他機関と協力して対応した。

4 苦情・事故等

苦情 8件、事故 4件（うち車両事故 0件）

(10) ショートスティむくの木

1. 利用実績（定員10人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	27	30	28	31	27	29	28	27	29	29	29	30	344
利用実績(人)	92	86	94	86	86	90	84	88	91	86	87	90	88.3
延べ利用者数(人)	213	209	209	193	183	211	191	211	215	207	208	223	2,477
平均利用人数(人)	7.9	7.1	7.5	6.3	6.8	7.3	6.9	7.9	7.5	7.5	7.2	7.5	7.3
利用率(%)	79.0	71.0	75.0	63.0	68.0	73.0	69.0	79.0	75.0	72.0	72.0	75.0	73.0

契約者数432人（2020年3月末現在）

一年のうち7月より4ヶ月の間、職員体制不足から土曜の日中閉所を設けたことや、閉所日を設けた影響から利用率は前年度よりもあがらず、7.3人の利用率にとどまった。新規利用契約者数は12人。「住まいがない」という理由でのロング利用はなく、家族の入院期間中の1ヶ月内のロングショートの利用にとどまった。また虐待ケースも含む2ケースがグループホームへ移行した。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 緊急的な家族の入院や、虐待事案が発生した際には、関係者と会議や協議の場を持ち、受け止め調整が出来た。
- (2) 移転については、土地探しや物件探しを進めたが、条件のあうものが見つからなかった。

- (3) 学生アルバイトを募集をしたところ、2月より3人の応募があり、順次採用した。
- (4) 自治会に参加を継続した。通信は年度末に作成したが、新型コロナウイルスにより動向が変わっていくため、発行を見送った。

3. 苦情・事故等

苦情 0件、事故 0件

(11) おおつ福祉会ホームヘルプセンター・きたくぶ(日中一時支援事業)

1. 実績報告

ホームヘルプ実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計	平均
依頼件数	710	686	709	712	699	704	658	629	672	629	640	677	8,125	677
実施件数	571	539	573	570	491	545	456	477	537	503	482	498	6,242	520
お断り	85	97	95	98	142	99	137	103	85	98	100	96	1,235	103
キャンセル	54	50	41	44	66	60	65	49	50	28	58	83	648	54
支援時間	1,196	1,163	1,212	1,154	1,056	1,178	988	1,094	1,134	1,095	1,079	1,036	13,383	1,115
身体介護	589	599	605	589	539	599	485	559	572	554	549	543	6,782	565
移動支援	607	564	607	565	517	579	503	535	562	541	530	493	6,601	550
利用人数	138	140	141	144	137	138	128	137	138	144	133	142	1,660	138

1か月の平均では、依頼件数677件・実施件数520件・断り件数103件・キャンセル件数54件・利用人数138人・利用時間数1115時間となった。

日中一時支援実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	22	21	24	24	22	22	22	23	21	22	21	5	249
利用者数	55	47	57	55	50	47	49	45	44	52	46	7	554
一日平均	2.5	2.2	2.4	2.3	2.3	2.1	2.2	2.0	2.1	2.4	2.2	1.4	2.2

※伊香立ロコは利用者の卒業に伴い、2019年度より閉所。

年間の契約者は9人。大津市北部地域の放課後等児童デイサービスの普及により、日中一時支援の利用希望者は年々減っている。年間利用人数は554人で、一日平均利用者は2.2人となった。3月は新型コロナウイルスの影響で3月9日～31日まで閉所とした。

2. 重点課題に対する取り組み

(1) 今年度は、昨年度に比べ大幅な人員体制の見直しを行った。まず、職員配置は昨年度8人に対して6人。職員体制についても、サービス提供責任者の事務時間を適切に確保したことに加えて、12月末に1人退職したこともあり、職員の支援時間数が大幅に減少した。

年間の支援時間は13,383時間(目標は16,000時間)、身体介護の時間は6,782時間(目標9,000時間)、移動支援の時間は、6,601時間(目標7,000時間)となった。

(2) 今年度は伊香立ロコの閉所、利用者の卒業に伴い、契約者は9人となった。日中一時支援の年間事業量の目標を867人としていたが、実績は554人と目標を上回ることができなかった。

1か月あたりの平均は、46人(目標70人)1日あたりの平均は2.2人(目標3人)で、目標を上回ることができなかった。

利用契約者の減少に加え、新型コロナウイルスの影響で3月9日～31日を閉所することとなったことも年間事業量の低下に大きく影響している。

(3) 公用車に関しては、整備していない。

(4) 年間を通して自立支援協議会や社会福祉協議会主催の研修に参加したり、大津市発達障害者支援センターかほんより講師を招き虐待防止を目的とした学習会を実施した。

- (5) 自立支援協議会主催の『大津市ヘルプ事業所協議会』、『北部ネットワーク協議会』、『移動支援プロジェクト』などに職員が参加し、情報交換や地域の課題の認識を深めた。
- (6) 年間20回のケース会議に出席、それぞれのケースで関係機関と緊密にやりとりをし、本人理解を深めた上で支援にあたるよう心がけた。

3. 苦情、事故など

ヘルプ : 苦情 3件 事故 3件 日中一時: 苦情 1件 事故 0件

(12) 相談支援事業所ひびき

1. 実利用者数

(1) 計画・モニタリング件数

	合計件数	身体	知的	精神	発達障害
障害者	395	5	382	6	2
障害児	58	2	51		5
合計	453	7	433	6	7

(2) 支援人数

	実人数	身体	知的	精神	発達障害
障害者	247	3	235	5	4
障害児	66	1	62		3
合計	313	4	297	5	7

(3) 相談件数

	合計件数	身体	知的	精神	発達障害
障害者	4398	142	4191	47	18
障害児	845	34	788		23
合計	5243	176	4979	47	41

職員体制は、相談員3人（昨年度同時期5人）、補助1人。前年度に比べ相談員は減ったが契約者は増えたこと、一般相談が増えたことから、モニタリング頻度を減らさざるを得なくなっている。

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 大津市の指定特定相談（計画相談：モニタリングと計画更新）及び委託相談（一般相談）をおこなった。相談技術向上のため、自立支援協議会等の研修に参加した。相談員1人があらたに現任研修を受講した。
- (2) 重点的に関わったケースとしては、虐待対応・単身生活への支援・親の病気や高齢化・一般就労継続への支援・異性トラブル・金銭トラブル・家族全体への支援・本人の緊急入院対応等、多岐に渡る。その都度、自立支援協議会の相談支援連絡会に上げ、地域課題として一緒に検討したり、各関係機関と連携して支援・対応を行った。
- (3) 大津市全体では、計画相談・一般相談ともに必要とする人は増えているが、業務過多で対応できる事業所・相談員が少なく、大きな課題となっている。ひびきでも常に業務遂行が追いつかず、厳しい状況が続いた。ケースを抱え込まず共有すること、法人内外の機関に積極的につながっていくこと、業務の優先順位を考えスリム化していくこと、等を意識して業務にあたった。

3. 苦情・事故等

苦情 0件、事故0件